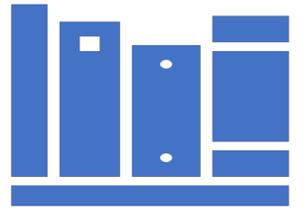




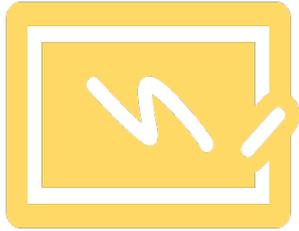
Part 1: 災害文化とは  
～見て、聴いて、知って  
熊谷勵、佐々木力也



Part 2: 災害文化とは  
～気づいて  
田中成行、大野眞男



Part 3: 災害文化の力  
～未来へ向けて  
山崎憲治



スペシャル  
ゲスト

釜石漁火の会

災害文化研究会@ぼうさいこくたい2021

災害文化の顕在化のこころみ  
～日常の中に災害文化をよみとく～

## 「災害文化」＝地域力＞言い伝えの伝承、習俗、習わし

- ・ 東日本大震災から10年、問題の指摘が・・・
  - ①被災体験・教訓をどのように語り継ぎ、事前の備えに実効性を持たせるか（今村、2021）
  - ②研究知見の積み重ね、市民の減災知識の増加があっても、減災行動につながっていない（大木他、2015; 河田、2019）



☞ 課題解決の鍵・・・三陸沿岸の津波「災害文化」、

岩手県沿岸小中学校での3.11津波犠牲ゼロ

- ・ 低頻度災害を長年に亘りどのようにして語り継いできたか→課題①解決のヒント
- ・ 津波常襲地での地域の学習：命を守り、地域復興の人材育成→課題②のヒント

- ・ 甚大かつ新しいタイプの災害の頻発、持続可能性への脅威

☞ 災害文化が持続可能な未来社会を創る鍵となる：

岩手県沿岸部の具体的事例を挙げ、災害文化の構造を現在・未来に活かすプラットフォームとして示す

×「天災」☞○災害は社会を映し出す鏡 ☞ 社会の課題の発見 ☞ 課題解決＝未来への架け橋

## Part 1

三陸地域における明治・昭和の津波体験を知る学習から東日本大震災をへて新たな学習が創る災害文化



- 熊谷勵氏：三陸町立越喜来小学校・大船渡市立綾里小学校での児童演劇『暴れ狂った海』を中心に
- 佐々木力也氏：宮古市立田老第一中学校の震災体験と地域の復興に向けた教育を中心に
- Q & A と中まとめ

# ぼうさいこくたい2021

## ◎ これまでの防災教育の実践

- 平成 8 年度・平成 9 年度 三陸町立越喜来小学校
- 平成 18 年度・平成 19 年度 大船渡市立綾里小学校
- 平成 20 年度以降 退職後の防災教育活動

令和3年11月7日（日）

釜石市民ホール TĒTTO

大船渡市立綾里地区公民館

館長 熊谷

勵

# 三陸町立越喜来小学校（平成8年度）

## ◎ 三陸大津波の被災状況（明治・昭和）

- ・ 町内の波高や浸水域
- ・ 被災状況（犠牲者の数、  
流失家屋、学校別被災  
状況等）



## ◎ 三陸大津波の被災状況（明治・昭和）

- ・ 昭和三陸大津波の体験談 2 名
- ・ 明治三陸大津波被災状況のパネル展示



## ◎ 三陸大津波の被災状況（明治・昭和）

### ○ 4年生を対象に被災状況の確認



- 大津波の水位表

- 津波供養塔

- 津波到達場所等

# 三陸町立越喜来小学校（平成9年度）

## ◎ 安全マップの作成

- ・ 津波浸水域の地図に全校児童の家、通学路
  - ・ 登下校時の避難場所や経路の確認
- 
- ・ 各教室や廊下に安全マップ
  - ・ 地区懇談会で保護者に説明



# 大船渡市立綾里小学校（平成18年度）

## ◎津波防災方言劇、主題歌 （暴れ狂った海） 創作・上演

- 津波の恐ろしさ
- 命の大切さ
- 悲しみや生活困窮
- 復興



## ◎ 綾里小学校 学区の概要

- ・ 明治の大津波 犠牲者 1,269名 遡上高 38.2m  
(国内最高)
- ・ 昭和の大津波 犠牲者 180名

津波注意報や津波警報の避難率 10%未滿



# 大船渡市立綾里小学校（平成19年度）

- 津波防災看板  
（地区ごとの被災  
状況と避難場所）



- 明治と昭和の大津波  
被災状況（全戸配布）

## 暴れ狂った海 「災害は忘れた頃にやってくる」

明治三陸大津波の被害状況									
明治29年6月15日午後7時50分（1896年） 最初の地震から18分後に津波「白浜38、2m」									
岩手県	被災前人口	死者・不明	負傷者	被災前戸数	流失家屋	倒壊家屋	浸水家屋	船舶流失破損	被害前
		18,158	2,943		4,801	726	1,175		5,456
綾里村	2,251	1,269	57	367	276	20	1	222	180
田浜	421	336	15	64	58	6	0	52	49
石浜	187	146	9	28	25	1	0	28	25
港	607	374	9	118	118	0	0	35	34
岩崎	242	124	9	46	46	24	11	1	8
野々前	257	32	0	34	4	0	0	32	11
白浜	236	175	0	36	31	0	0	37	37
砂子浜	144	18	0	18	3	0	0	19	8
小石浜	157	64	9	23	23	2	0	11	8

昭和三陸大津波の被害状況									
昭和8年3月3日午前2時41分（1933年） 最初の地震から20分後に津波「白浜23m」									
岩手県	被災前人口	死者・不明	負傷者	被災前戸数	流失家屋	倒壊家屋	浸水家屋	船舶流失破損	被害前
		2,713	823		2,914	1,337	2,259		5,860
綾里村	2,773	180	18	432	276	7	2	220	220
田浜	332	1	0	49	28	2	2	47	47
石浜	320	9	6	47	27	2	0	23	23
港	705	91	1	117	115	0	0	62	62
岩崎	376	1	0	63	51	0	0	21	21
野々前	368	1	0	64	6	0	0	43	43
白浜	312	66	11	42	33	2	0	14	14
砂子浜	157	2	0	21	5	0	0	2	2
小石浜	203	9	0	29	11	1	0	8	8

この資料は、三陸町史第4巻「津波編」によるものです。なお、被害のなかった宮野、野形、小路は、被災前人口と被災前戸数に加えてありません。

お願い 津波の恐ろしさを語り合い、高台に避難することを後世に伝えてください。

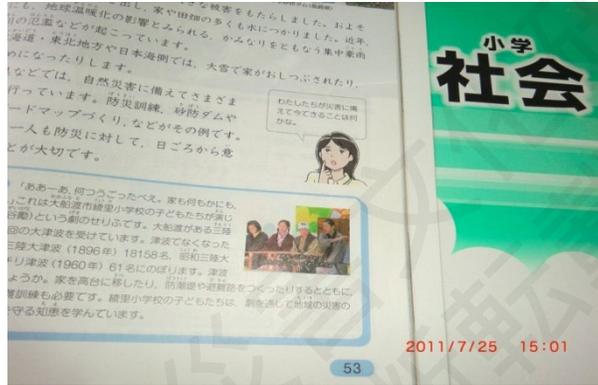
平成19年6月 大船渡市立綾里小学校

## 成果

- 津波の恐ろしさを知り、自分の命は自分で守る心構え
- 津波情報に目を向け、津波訓練等に参加意欲
- 地域住民や各方面に防災意識の高揚

# 退職後の防災活動

- ・ 5年生社会科に掲載



平成23年度から継続中

- ・ 各地で伝承活動

暴れ狂った海—被災状況とその教訓—

- ・ 「暴れ狂った海」の上演  
大船渡市 海フェスタいわて  
釜石市 津波防災フォーラム  
県内外各小・中学校

- ・ 学校訪問等で被災園児  
児童・生徒の実態把握



# ぼうさい国体2021

## 災害文化の顕在化のこころみ

— 日常の中に災害文化をよみとく —

災害文化研究会  
元宮古市田老第一中学校校長  
佐々木力也

2021. 11. 7(日) 10:00





いわて震災津波  
アーカイブから



佐々木力也 撮影



いわて震災津波  
アーカイブから

家屋の被災状況			保護者の被災状況		
	全壊	半壊	一部損壊	保護者の震災死	その他
1年	22	0	2	女子1名(父) 男子1名(母)	
2年	16	3	1	女子1名(母)	
3年	24	1	1	女子1名(母) 男子1名(父)	
全学	62 : 47%	4 : 3%	4 : 3%	孤児になった生徒有り	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総計70名が家屋の被災者 (53%) <ul style="list-style-type: none"> <li>内学区内移転者50名 <ul style="list-style-type: none"> <li>(内訳：避難所27、自宅以外の持家9、親戚11、アパート3)</li> </ul> </li> <li>学区外移転者16名 <ul style="list-style-type: none"> <li>(内訳：自宅以外の持家1、親戚8、アパート7)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>					

田老一中

第1防浪堤の影

佐々木力也 撮影



田老一中の校庭



佐々木力也 撮影

## 平成23年度の学校経営方針

- 1 生徒や家庭の生活現実を十分に理解し、教育活動やPTA活動行うこと。
- 2 田老や岩手の復興のため、明るい未来を展望し努力することができる生徒を育成すること。

# 平成24年度の学校経営方針

1 「震災の記録と発信」

2 「命の教育活動」

- ・ ・ ・ 震災発生から1年間、意義やねらいを生徒・教職員が共有しながら推進した。

# 「復興教育とは何か？」

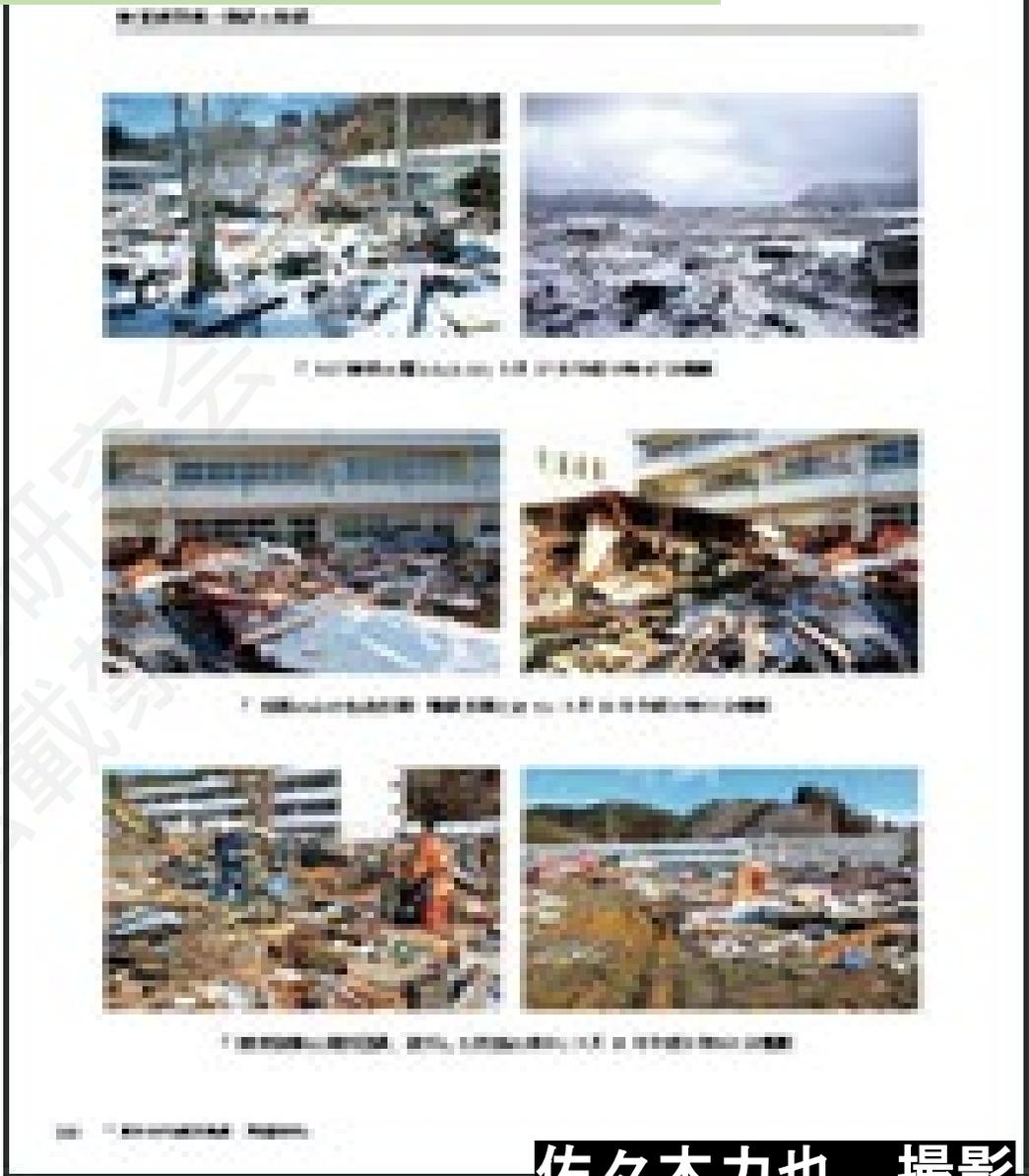
## 「いわての復興教育」とは？

「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するために、各学校の教育活動を通して、3つの教育的価値（**いきる**・**かかわる**・**そなえる**）を育てること」です。

「いわての復興教育」は、東日本大震災津波で学んだ教訓を学校教育の中に生かし、未来を創造していくために、本県の教育の根幹に据え、力強く生きていく子どもの育成をねらいとしています。一人ひとりの子どもに「生きる力」を育むために、「いわての復興教育」を基盤として、学校教育を進めます。



「作文集 いのち」の作成



佐々木力也 撮影

風化とたたかう。文集を手にする田老一中の3年生。1年の時に震災に遭った

岩手県宮古市の同校で11日、手塚耕一郎撮影



## 津波体験作文集「いのち」の存在価値

- 震災の風化を阻止していく原動力
- 人生を前向きに歩んでいく力の育成
- 「自分の命をしっかりと守ること、他の人の命を支え守ることの大切さ」を伝えること
- 田老の未来の姿を語り、復興への夢を描くこと

- 「利他の精神」をかたちにしたボランティア活動を行う等、多種多様な震災関連の教育活動の紹介
- 震災で得た学びや教訓を後世に伝え、もしも、津波に流され、無常の雪に埋もれ、尊い人を亡くした人たちがいたならば、その悲しみを胸に刻みつつ、その人のために自分はどう生きるべきかを考え、その人のためにも生きる決意を強くし、希望を持って前向きに生きるための指針



佐々木力也 撮影

主催宮古市小中学校芸術文化教育連盟  
連 合 音 楽 会

11月14日 連合音楽会 「あの日から」 全校合唱



佐々木力也 撮影



佐々木力也 撮影



SATO  
30

2015 CALENDAR  
TORAY ARROWS VOLLEYBALL TEAM  
结成



果てなき大海原へ

笑って  
がんばる  
みんな  
の  
ために

わたしの主張宮古地区大会

佐々木力也 撮影



佐々木力也 撮影

「津浪が来ないで在郷も、やつぱりよいなあ」と笑ひました晩になつてお父さんと青砂里の伯父さんが来ました外は夜警の消防が騒ぎながらまわて歩いてるらしい眠くなつて目をこすつてゐるとお父さんは「ねろ」と言ひましたので今晩も津浪がと思ひ着物を着てゐるとおぢいさんは「古の津浪でさへ此處へはこないよ」と力づけて呉れました。ろばたを圍んで青砂里のお伯父さんは僕のお父さんに「お前さん達は誰も亡くしないから休んごがんせ、僕は亡くしてゐるのでとてもねむられない」と情けなそうに言つ

「ガタ／＼／＼」とゆれ出しました。そばに寝てゐたお父さんがとんきやうな聲を上げて「地震だ／＼」と家の人達を皆起して戸や障子を開けて外に出たが又入つて来ました。けれどもおぢいさんは「なあに起きなくてもいゝ」と言つて平氣で寝て居ました。するとだん／＼地震も止んできました。

お父さんはそれから安心した様子で火をおこしてみんなをあて／＼くれました。

恰度体が暖つたころにお父さんが「なあんだおかしい沖がなつてきた山ににげろ」と言ひますから私は惣言を起しました。

お母さんにせんちゃんをそはせて静子と二人で表に出る時おばあさんは火を止めてゐましたしお父さんは「提灯を付けろ／＼」とさはいでいました。

表へ出て見ますと町の人々が何にも言はないでむす／＼と山の方へ行くので静子あべといつたら「やつたおらあ父さんといく」といつて家に入つて行きました。仕方がないから私はだまつて家の前に立つて居るとそこへ玉澤さんのとし子さんが真青い顔をして来ましたので二人手をとつて山の方をさして逃げました。

木村さんのへい垣の所で人が澤山こんでゐたので落合さんの方へ行かうとしたけれども又もどつて木村さんのところを押し／＼やうやくのことで山に逃げ登りました。

山に登つた時土のやうな物が口に入りましたが私

はそんなものには平氣で笹にとつ／＼き／＼赤沼山のお稻荷さんの所まで行くと、みんながもつと／＼登つて行くので私達も、はなれないやうに、ぎつしり手をとつて人の後をついて後山のとつべんまで上つて火をたいてあたりました。

家の事を思ひ出した時は其の時でした。私は少し落付いて考へた時お父さんは確に生きて居ると思ひました。

冷たい夜がぼのぼのと明けたころみんなの家のお父さんお母さん達は自分のうちの子供達を尋ねにくるのに私の家の人に誰も来ませんでした。

すつかり明るくなつたので下に行つて家の人がどこかに居ると思つてあちこち見ましたが誰も私の家の人が居ると教へてくれないし見當りませんでした。其の時私は始めて一人残つたといふことがわかりました。

私は泣きながらお墓の所まで来て火にあたつてゐた人を見たら頭から津浪の水をかぶつてぶる／＼／＼へてゐました。

伯父さんと山こに來た時も小林の人達でけがをし

⑭

昭和九年三月二日  
一回忌記念

# 田老村津浪誌

田老小學校編





# 校歌

作詞 駒井雅三  
作曲 千葉了道

一  
かもめ 群れなき 清新の  
波の音すみて 朝明くる  
田老の湾の 輝けば  
学びの窓よ 色映ゆる

二  
三王岩の そのごとく  
ゆるがぬ理想 厳として  
えぞ浜ゆりの 美しく  
徳光花と 咲きぬべし

三  
防浪堤を 仰ぎみよ  
試練の津波 幾たびぞ  
乗り越えたてし わが郷土  
父祖の偉業や 跡つがらん

四  
学びの庭は 天恵の  
太平洋を まのあたり  
うしろに 高き山の幸  
見よ文化の 基なる  
田老第一中学校

## ■学校経営で大切にしたいこと

- ① 自分の命を守る力、他の人の命を支え守る力の育成・・・いのちの教育
- ② 「人は人によって人となる」  
・・・人とのかかわりが大切
- ③ かなしみは力に、欲りはいつくしみに、いかりは智慧にみちびかれるべし・・・レジリエンス（「回復力」）

## ■ねがいとする生徒像

「田老の生徒一人一人に，田老や岩手の復興や発展の担い手になってほしい，とねがうからである。」

## ■これからの教育

いわての復興教育の中核とした教育活動のねがいやねらいを明確にしながらいっしょの教育活動を大切に扱うこと。



**ご清聴ありがとうございました。**

## Part 1

三陸地域における明治・昭和の津波体験を知る学習から東日本大震災をへて新たな学習が創る災害文化

- 熊谷勵氏：大船渡市立綾里小学校での児童演劇『暴れ狂った海』を中心に
- 佐々木力也氏：宮古市立田老第一中学校の震災体験と地域の復興に向けた教育を中心に



## 質疑応答、中まとめ

- Zoom参加の方は挙手の後にマイクで回答、もしくはチャットでご質問ください。
- Youtube参加の方はチャットでご質問ください。

## Part 2

# 東日本大震災後の三陸の災害文化に気づいた活動がつくる災害文化



- 田中成行氏：「姉吉の碑」の学習をもとにした「命を守る言葉」の授業を中心に
- 大野真男氏：防災・復興を支える言葉の力について、釜石での活動を中心に



# スペシャルゲスト 「釜石漁火の会」



「あの日、あの時」甚句を唄う藤原さんと木村さん、それに耳を傾ける災害文化研究会メンバー 2019年11月



# 防災・復興を支える 言葉の力について

—釜石での活動を中心に—

岩手大学 大野真男

災害対応事業について時系列に整理すると、一般的に以下の三段階が存在し、関係する言葉の機能も違っている。

1) 防災・減災段階

2) 発災時の支援段階

→言葉の通達的機能  
(意思疎通の道具)

3) 再興支援段階

→言葉の象徴的機能

被災体験を  
語り継ぐ

# 象徴的機能とは？

地域や集団の文化と密接に結びついたものであり、アイデンティティ一表出機能とも呼ばれる。

東日本大震災で被災したコミュニティが再興されていく際には、後者の地域アイデンティティー表出に関わる機能が、傷ついた地域コミュニティの再生と深く結びついていった。

大津波のあとの瓦礫の中から、自然発生的に「**がんばっぺし、釜石**」「**なじょにかすっぺし、陸前高田**」などというペンキ書きの復興メッセージが出現してきたことは記憶に新しい。あえて方言でしか表すことのできない、地域の仲間意識や連帯的感情が込められており、**方言の力強さ**といってもよいだろう。

10年前、東日本大震災で被災した街、釜石には、昔話を方言で語る女性グループ「漁火の会」がある。彼らと連携することで、方言語りを通じて被災した地域の活性化を支援する活動を8年間継続してきた。

その一部を紹介すれば、方言昔話絵本『ふるさとの昔話』の作成、方言昔話の語りの会「おらほ弁で昔話を語っぺし」を継続的開催などがあげられる。



釜石漁火の会が  
おらほ弁で語る

ふるさと  
の昔話



科学研究費基盤研究(C)「被災地域の言語文化復興に向けた取り組みの  
理論と実践に関する統合的研究」(課題番号16K12364) 成果物



①から⑰の番号は、右ページの「もくじ」にあるお話が語られた場所です。探してみてくださいね！  
遠野から来たお話もあります。

### もくじ

① 屁っぴり嫁	1
② 海の水はなぜからい	13
③ 鬼岩	23
④ 狐磯	31
⑤ つま洲の河童	39
⑥ 糠餅と地蔵様	51
⑦ 長い長い綱っこ	61
⑧ 白蛇八雲神社伝説	67
⑨ 逢わず沼	79
⑩ 笛吹峠	87
⑪ 迷い家	99
⑫ 小川の山姥	105
⑬ 芍薬になった	113
⑭ せやみ	123
⑮ せっこぎ	129
⑯ かばねやみ	135
⑰ 数え唄 一兵衛さん	140

### 本文の説明

(1) 本文は、方言で書かれています。本文の漢字右がわには、方言でのよみかたを、ふりがなのように書いてあります。本文の左がわには、共通語訳がひらがなで書いてあります。

(2) むずかしい方言には「注」をつけ、お話のあとに説明を書いておきました。ほかにもわからないことがあるかもしれません。まわりの人に聞いて、教えてもらってください。

(3) 左の地図は、お話が語られた場所です。よく似たお話が別のところで語られていることもあります。また、⑭⑮⑯は同じお話ですが、ことばがちよっとずつ違います。比べてみてください。

(4) じっさいの語りを聞いてみたい人は、ぜひ、漁火の会の集まりに来てください。感想を教えてください。



「ほだったって、きのなより今日、今日より明日ってみてえに、つらつき悪くなんが、  
「そんたどいって、きのうより、きょうより、あしたというより、かわいさが、わるくなるが、

「あんべえ悪がったら、はあ、病院さても行って、診てもらってこじや。」  
「たどごころあ、くあいが、わるかったら、もつ、びょういんにても、いって、みてもらってこじや。」  
「どじ」たどごころあ、

「おれにべえっこ屁垂れるやまいあんものす。」  
「たどごころあ、

「へなど、誰だれでも垂れんだし、垂れる、垂れる。」  
「たれろ、たれろ。」  
「たれろ、たれろ。」

「んだら、おっかさん、にわさ(注)出はって、白押せてける。」  
「たどごころあ、

「いや、なんじよに嫁が屁垂れるのに、にわさ出はって、白押せねばねな。」  
「たどごころあ、

「と思って、だども、嫁に言われたから、白がっかり押せてたど。」  
「たどごころあ、

「そうしたどごころあ、それ、何日垂れねえ屁だもの、」  
「たどごころあ、

「それこそ、けつっここうして振るってやったつが、ボワンと垂れたどごころあ、」  
「たどごころあ、

「それこそ、婆さま、白押せたまま、それこそ、飛ばされてしまったんだ。」  
「たどごころあ、

南部弁サミット in 釜石 ▶

# おらほ弁で 昔話を語っぺし



釜石 漁火の会の語りによみがえる  
「ふるさとの昔話」

めんこい小学生による昔話の語り

青森県からのゲスト  
(八戸童話会 柗谷伸夫さん ほか)

民話劇「つま淵の河童」

とき

2020年1月25日(土)  
14:00~16:30(開場13:30)

ところ

岩手県釜石市大町1-1-9  
釜石市民ホール  
TETTO [テット] ホールB  
【交通案内】JR釜石線「釜石駅」・三陸鉄道  
南リアス線「釜石駅」より徒歩10分、車5分

入場無料

主催：文化庁事業「おらほ弁で語っぺしプロジェクト・次世代継承編2」(岩手大学)

共催：釜石市・「発信! 方言の魅力 語るびや語るべし  
青森県の方言2019」(弘前学院大学)



「復興エール」

南部弁サミット

in 釜石

# おらほ弁で

## 昔話を語っぺし

とき

2021年1月23日(土)  
13:30~15:30(開場13:00)

釜石 漁火の会の語りによみがえる  
「ふるさとの昔話」

めんこい小学生の語りもあるよ

民話のふるさと・遠野からのゲストも  
青森県からのゲスト(録画メッセージ)

栗林弁で語る「なもす劇場」(おもっしょはなしっこ)

岩手県釜石市大町1-1-9  
釜石市民ホール

TETTO [テット] ホールA

【交通案内】JR釜石線「釜石駅」・三陸鉄道  
南リアス線「釜石駅」より徒歩10分、車5分

ところ

入場無料

大ホールを使って、ゆったり安心  
ソーシャルディスタンス!

★新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、やむをえず開催中止となる場合もございます。中止の場合は、釜石市民ホールTETTOのホームページのイベントカレンダー等でお知らせいたします。お問合せは「おらほ弁で語っぺし」事務局: nambubun2kamaishi@gmail.com、までお願いいたします。

主催：文化庁事業「おらほ弁で語っぺしプロジェクト・次世代継承編3」(岩手大学)  
共催：釜石市・「発信! 方言の魅力 語るびや語るべし青森県の方言2020」(弘前学院大学)

漁火の会のお二人をゲストとしてお迎えして、  
北村弘子さんには、明治の大津波を素材にした  
昔話「命てんでんこ」を、  
藤原マチ子さんには、被災時のつらい体験を  
甚句に仕立てた、釜石あの日あの時甚句  
「願いごと」を、それぞれご披露いただきました。



手話通訳する北村弘子さん

甚句を熱唱する藤原マチ子さん

## Part 2

### 東日本大震災後の三陸の災害文化に気づいた活動がつくる災害文化

- 田中成行氏：「姉吉の碑」の学習をもとにした「命を守る言葉」の授業を中心に
- 大野真男氏：防災・復興を支える言葉の力について、釜石での活動を中心に



## 質疑応答

- Zoom参加の方は挙手の後にマイクで回答、もしくはチャットでご質問ください。
- Youtube参加の方はチャットでご質問ください。

## Part 3

# 災害文化の力～未来へ向けて



- 山崎憲治氏：「災害文化プラットフォーム」の提言
- 意見交換



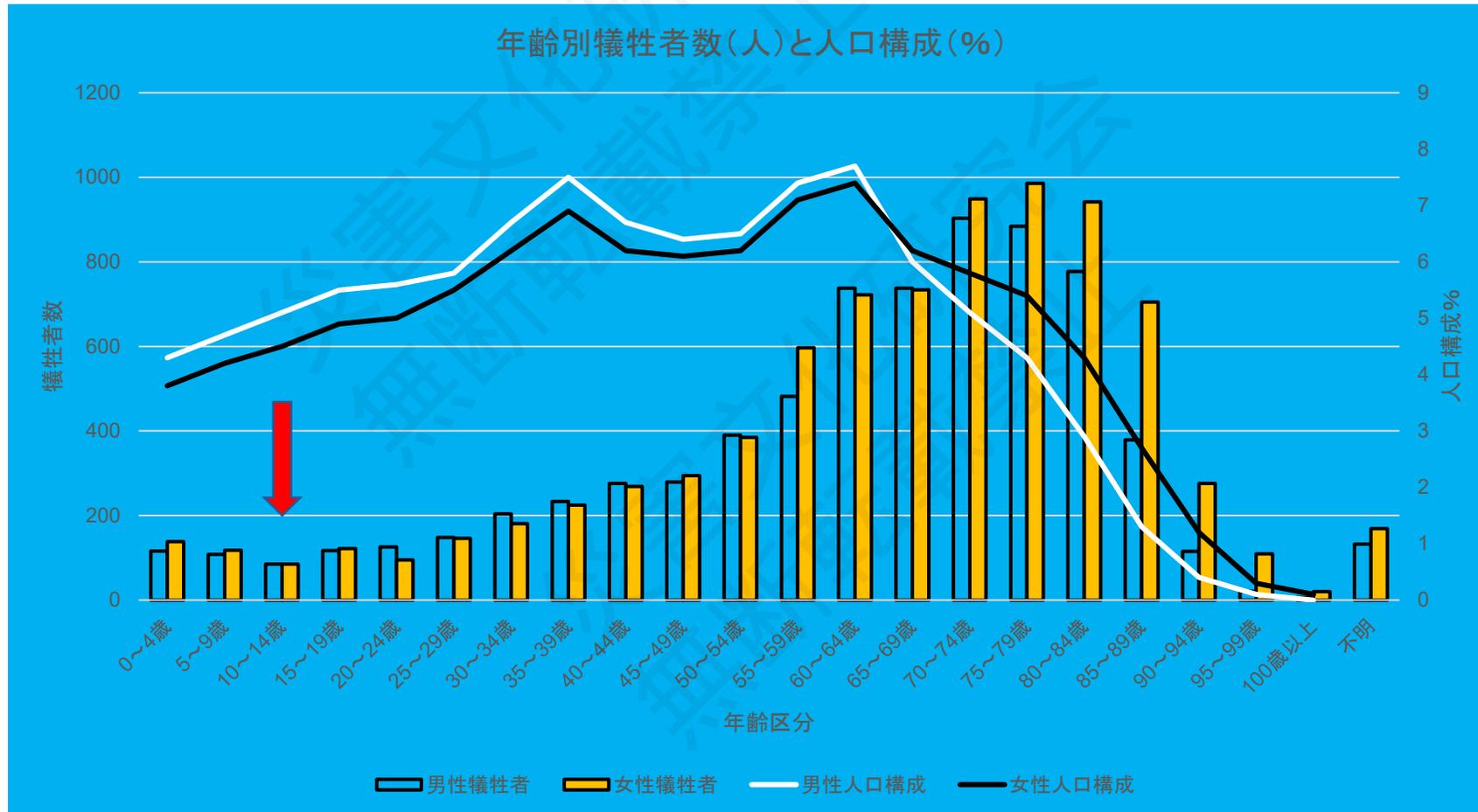
An aerial photograph of a river valley. A large dam is visible in the center, with a reservoir behind it. The surrounding area is lush green with hills and some buildings. The text is overlaid on the image.

# 災害文化の力 未来へ向けて

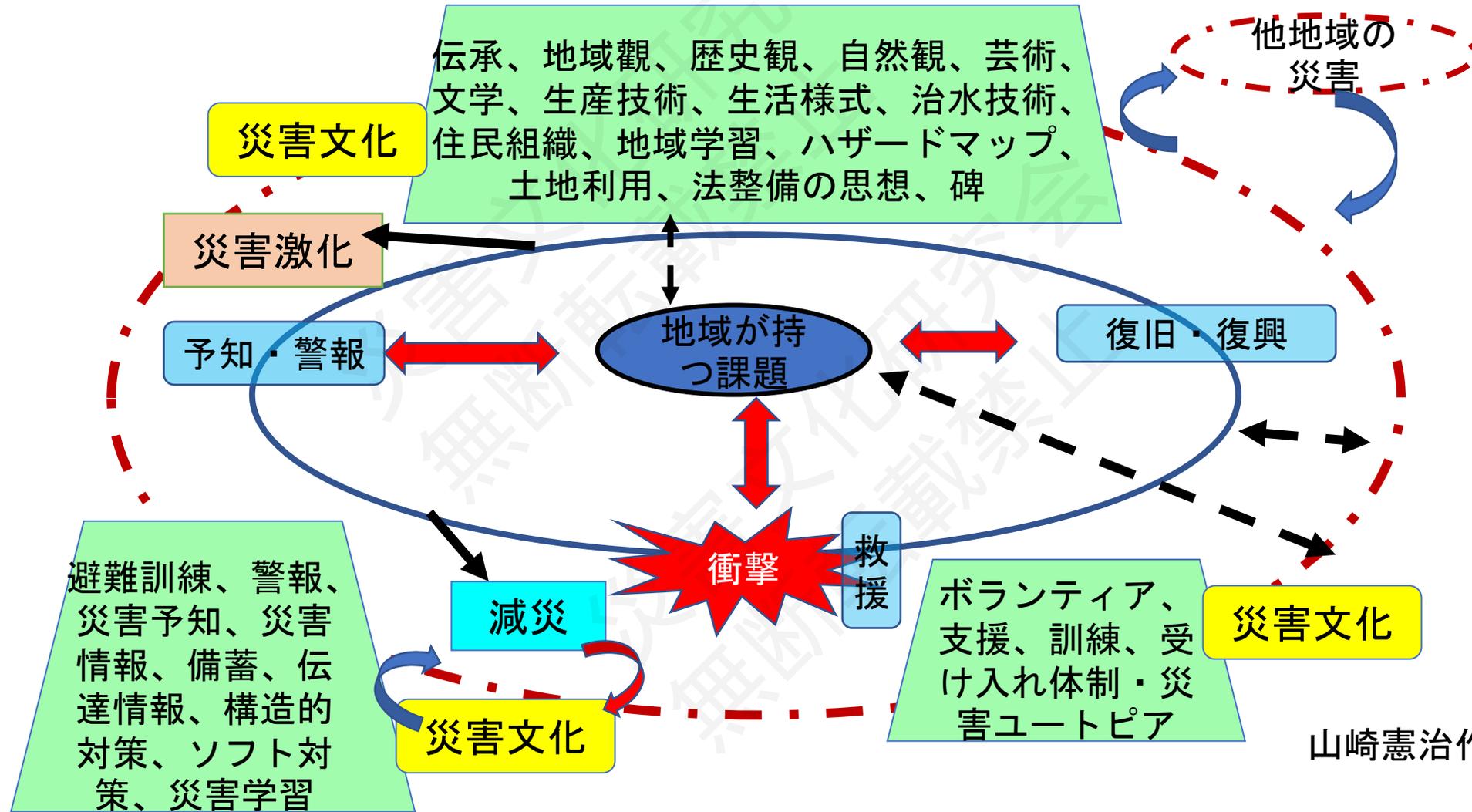
災害文化研究会世話人  
山崎憲治

# 東日本大震災の犠牲者

(毎日新聞2012・3・11の犠牲者氏名一覧から集計)



# 災害をトータルにとらえる



これら災害文化といわれるものを、災害のステージ（縦軸）、人間活動・地域（横軸）の中に位置づけてみる

碑建設

慰霊行為

文学・記録

芝居・詩歌

オーラルヒストリー

展示館

# 災害のステージと人間活動の中に、さらに地域、国、地球規模までウイングを広げて**災害文化**を位置づける

		基本的人間活動					地域レベル		国レベル		地球規模
		食べる	住む住宅立地	学び・知る	表現活動	働く	移動	エネルギー	特色・課題	コミュニティ活動	特色・課題
災害のステージ	衝撃時										
	復旧・復興	<div style="border: 2px solid green; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>災害文化</b></p> <p>碑建設 慰霊行為 文学 <u>記録</u> 芝居 詩歌 オーラルヒストリー 展示館</p> </div>					豪雨頻発	<u>ハザードマップ</u>	CO2排出	<u>被災地支援</u>	<u>温暖化</u>
	予知										
	警報										



# 各災害文化を基本的人間活動、地域、国レベル、災害のステージのマトリックスに落としてみる

		基本的人間活動						地域レベル		国レベル		地球規模	
		食べる	住む 住宅立地	学び・知る	表現活動	働く	移動	エネルギー	特色・課題	コミュニティ活動	特色・課題	公的支援活動	特色・課題
災害の ステージ	衝撃時	備蓄した非常食 郷土の伝統食 安全な水 緊急支援食 感染対策	避難 安全空間確保 感染対策 プライバシー トイレ 風呂	被災経験を生かす 出来ることを最大限	指示 合言葉 標語	命を救う行動 利他行為	緊急避難 高台避難 率先避難 安全避難	備蓄とその情報 暖房	地形 降水 プレート 豪雨頻発 水害常襲地	利他行為 ボランティア受け入れ 延命緊急処置 捜索活動 避難所開設、交通確保 災害ユートピア	地形 降水 プレート	実力部隊の支援 ライフライン確保 水・燃料確保 緊急医療体制 交通機関確保 後方支援	災害多発 干ばつ 水害 温暖化 海面変化 氷河後退
	復旧・ 復興	食糧支援配分 感染対策	土地利用規制 住宅立地 住宅かさ上げ 安全の見直し 水屋 住宅の安全立地と再建 ハザードマップ 集落移転	災害の見直し 災害調査 災害学習 文学 詩歌 ハザードマップ	碑建立 慰霊行事 文学、記録 芝居、詩歌 遺構保全 オーラルヒストリー 展示館	働く場再建 支援活動 職場復帰 職場安全確保 復興の中の自分	交通確保 医療体制 舟の準備	新エネルギー	緊急対応策 職再建 人口流出 自然への適応 豪雨頻発 新規事業 建設事業 人口減少	安全確認 ボランティア活動 交通路確保 神社立地、安全地確認 感染症対策 水害防災組合 復興計画 文化創作活動 ソフトな対応・適応 ハザードマップ ローカルノリッジ ハードな対策技術	多様性追求 格差 CO2排出 一極集中 人口減少 高齢社会	避難所設置 実力部隊の支援 被災の実態把握 緊急支援 インフラ復旧活動 ハードな対策 被災地支援 復興予算 治水技術 復興法整備 ソフトな対応・適応 災害メカニズム解明 シェルター設置 移動手段手順 車両確保 自然観・災害観 正確な情報	温暖化 南北問題 SDG s
	予知	非常食 避難ルート確保 避難シュミレーション	安全確認 避難ルート確保 避難シュミレーション	災害学習 危機意識の共有 避難訓練 自然観・災害観		避難体制	移動手段 移動手順 車両確保	備蓄とその情報		避難訓練 移動手段手順 車両確保 自然観・災害観		避難訓練 移動手段手順 車両確保 自然観・災害観	
	警報			正確情報を得る	正確情報の共有	避難	緊急対応 避難行動			警報発進伝達 確実に伝達 人命確保 警報発出		正確な情報	

# 災害文化の力

- 個々の具体的災害文化は  
人間活動を見直す契機になる

コミュニティ、地域、国、地球規模の課題や特色を  
読み解くことが可能である。

# 災害文化を中間項として災害の希望学へ

- 災害は、地域が持つ弱点に集中して現れる。地域の弱い部分に被害が集中する。ならば
- 弱点を知り、その強化に努めれば、災害を克服するばかりか、地域そのものが可能性を持つ豊かさを実現できるのでは。
- そういう観点で災害を捉えなおす。そこには災害文化を中間項として災害の希望学という、今までとはまったく違ったパラダイムの転換が展望できないか。

見て、聴いて、  
知って

気付いて

地域へ向かう

未来を創る

災害文化研究会 [saigaibunkaiwate@gmail.com](mailto:saigaibunkaiwate@gmail.com)

ご参加ありがとうございました